

競 技 注 意 事 項

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、係員の指示に従って補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う。使用の際は係員の指示によって行う。棒高跳の練習については、競技開始60分前より主競技場内を使用することができる。

補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～6レーンのみとする。
- ・多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、9レーンは女子110mYH、10レーンは男子110H、11レーンは男子110JrHとする。
- ・第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。

※第2日目 男子10000mのレースを補助競技場で実施するため

16時10分 ～ 16時25分 トラック1～6レーン 使用禁止。

16時25分 ～ レース終了まで トラック1～3レーン 使用禁止。

雨天練習場の使用について

- ① 雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ② 雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③ シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ ハードルは使用できない。

2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

3 ナンバーカードについて

- ① ナンバーカードは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ② トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横やや後方につけること。
- ③ 3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所にて配布する。

4 選手招集について

- ① 選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- ② 選手招集完了時刻は下記のとおりとする。

トラック競技			
予 選		決 勝	
招集開始	招集完了	招集開始	招集完了
30分前	20分前	25分前	15分前

フィールド競技	
招集開始	招集完了
40分前	30分前

※棒高跳は、競技開始60分前に現地で招集を行う。

ただし、以下の種目の予選（男子5000mはタイムレース決勝）については招集時刻に時差があるので注意すること。

100m 200m 400m	1組～6組	競技開始20分前
	7組～12組	競技開始 5分前
	13組～18組	競技開始10分後
	19組～24組	競技開始25分後
	25組～28組	競技開始40分後
800m	1組～4組	競技開始20分前
	5組～6組	競技開始 5分前
1500m	1組～2組	競技開始20分前
	3組～4組	競技開始 5分前
	5組	競技開始10分後
男子5000m	1組	競技開始20分前
	2組	競技開始 5分前

- ③ 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- ④ リレーのオーダー表は招集完了時刻1時間前までに提出のこと。
オーダー用紙は、選手招集所で受け取ること。
- ⑤ 2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

5 競技について

- ① 競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ② その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③ トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。
「不正スタートについて、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ④ スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑤ 短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥ 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑦ トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑧ レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑨ 競歩において、先頭選手が最終周に入った残り100mは、競歩審判主任も判定に入る。
- ⑩ 下記の種目については、予戦をタイムレースで行い、上位8名で決勝を行う。

男子 200m・400m・800m・110mH・400mH

女子 200m・400m・800m・中学100mH・400mH

※男女100mはタイムレースにより上位16名を決定し、決勝を次のように行う。

上位8名をA決勝（1～8位を決定）、下位8名をB決勝（9～16位を決定）として行う。

- ⑪ 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑫ 携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コーチエリアからのコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。
- ⑬ 走高跳の最初の高さは、男子：1 m 5 0、女子：1 m 2 5からとする。
- ⑭ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。

		練習									以 降
走高跳	男子	145	150	155	160	165	170	175	180	185	3 cm 刻み
	女子	120	125	130	135	140	145	150	153	156	3 cm 刻み
棒高跳	男子	300	310	330	350	370	390	400	410	420	1 0 cm 刻み
	女子	200	210	220	230	240	250	260	270	280	1 0 cm 刻み

第1位決定のために行うバーの上げ下げは、

走高跳 2 cm

棒高跳 5 cm 単位とする。

- ⑮ 三段跳の踏み切り板の位置について、男子：1 1 m、女子9 mとする。

6 競技用具について

- ① 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検査は競技開始60分前に招集所にて実施する。
- ② 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1 5 0 0 mおよび棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳

第4ゲート：1 0 0 m付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳

※選手の競技場への入退場は、必ず審判員の指示によって行う。

8 記録計測標準記録の設定について

跳躍・投てき競技においては、大会運営の事情により記録計測ラインを設定する場合がある。ただし、第一試技においては全て計測し、第二試技以降については以下の記録計測ラインを越えなければ計測しない。

男子

走幅跳	高校砲丸投	中学砲丸投	高校円盤投	高校ハンマー投	やり投
5 m 8 0	1 0 m 0 0	9 m 0 0	2 7 m 0 0	2 5 m 0 0	4 3 m 0 0

女子

走幅跳	砲丸投	中学砲丸投	円盤投	やり投
4 m 6 0	8 m 0 0	8 m 0 0	2 4 m 0 0	2 7 m 0 0

9 表彰について

各種目の表彰は、決勝終了の都度行う。各種目とも1位～3位に賞状を授与する。

10 その他

- ① やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- ② 応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- ③ 更衣室は正面玄関に入って左側にあるので利用してもよい。
- ④ 記録は、競技場メインスタンド下、正面玄関付近に掲示する。